様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：８２５１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３６００３６

研究課題名（和文）大メコン圏経済回廊：ヒトのコネクティビティ

研究課題名（英文）Greater Mekong Subregion Economic Corridors: Human Connectivity

研究代表者
石田　正美（Ishida, Masami）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・研究センター長

研究者番号：１０４５０４８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：タイ東北部、ベトナム中部でのフィールド調査でのインタビュー結果に加え、ラオス国境での出入国データを活用、今回調査対象とした国境ではタイ人とベトナム人の越境が多く、従来のタイ人のベトナムへの観光客に加え、近年はベトナム人のラオスやタイ東北部への観光客の増加を示唆する結果が示された。また、留学生の移動では、ベトナム中部の各大学での留学生の受け入れ傾向が示され、特にラオスからの留学生が1000人以上の規模で受け入れている大学も存在した。また、該当地域の3ヵ国の地方政府間交流が盛んな状況が示された。これらは、これら3ヵ国の越境道路の整備が行われていなければ、実現しなかったであろうことである。

研究成果の概要（英文）：People to people connectivity has enhanced in a sub-region composed of Northeastern Thailand, Central Vietnam and Central Laos with the development of cross-border transport infrastructure (CBTI) such as East-West Economic Corridor (EWEC), Second and Third Mekong Friendship Bridges. First, tourists from Northeaster Thailand who visit Hue, Hoi An and Da Nang in Central Vietnam increased after the completion of EWEC and the Second Bridge and Vietnamese tourists who visit Laos and Northeastern Thailand also have increased after the completion of Third Mekong Bridge. Second, the development of the Third Bridge has enhanced the sister city relations among the provinces in the sub-region. Finally, the development of CBTIs between Laos and Vietnam increased the number of Lao students who study in Central Vietnam.
In addition to the activities of overseas Vietnamese in Thailand and in Laos, the enhanced people-to-people connectivity can be evidences of the economic effects of such CBTIs.

研究分野：地域研究

キーワード：ヒトのコネクティビティ　観光　留学生　姉妹都市関係　道路インフラ開発　タイ東北部　ベトナム中部　ラオス中部

１．研究開始当初の背景

東北タイのベトナム系タイ人の越境商人が、タイの果物をラオスとベトナムを経て中国に、東西経済回廊を利用して輸出していること、タイ東北部からベトナム中部への観光客が顕著に増加していること、メコン地域とりわけラオスからタイやベトナムへの越境留学生が増えているなど、経済回廊を通じてヒトの交流が盛んに行われている話が論文を通じて発表されたり、現地でのヒアリングを通じて聞かれた。

２．研究の目的

従来経済回廊の研究は、サプライ・チェーンや車両の越境移動や越境物流に焦点が注がれてきたが、本研究は上述の通り経済回廊を活用した越境商人の取引、越境ツーリズム、国境をまたいだ留学など「ヒトの連結性」に焦点を当てた。ところが、報告者がこれまで会ったことのある鍵となる越境商人とのインタビューが実際には成立しなかったことで、越境商人の取引といった課題を取り下げざるを得なかった。逆に調査を行っていくなかで、地方政府間の越境交流といった状況がいくつか観察されたことから、同現象を新たな課題に加えることとした。また、実際のヒトの交流も、経済回廊に沿って行われるわけではなく、タイ東北部、ラオス中南部、ベトナム中部から構成される広い地域でヒトの交流が行われていることがわかり、調査研究内容の設計をやり直した（ただ実際の交流には経済回廊など複数の越境道路インフラが活用されていた）。その結果、タイ東北部、ラオス中南部、ベトナム中部における、タイ人のベトナム中部への観光およびベトナム人のラオスとタイへの観光、ラオスからベトナムやタイへの留学とタイとベトナム間の交換留学、姉妹都市関係をはじめとする地方政府間の国境をまたいだ交流の現状を調べ、そうした動きがなぜ加速したのか、その背景と理由を明らかにすることを目的として研究を進めた。

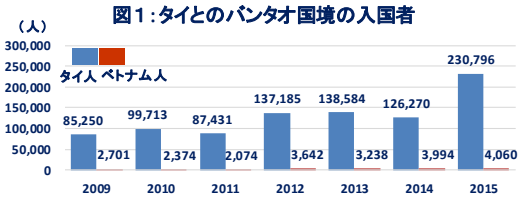
３．研究の方法

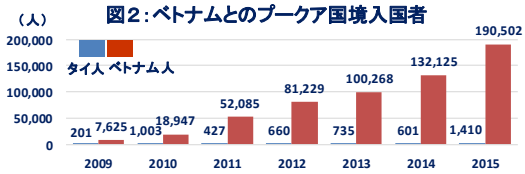
調査票をベースに東北タイとベトナム中部の各地の旅行代理店、大学、地方政府とのインタビュー調査を、研究協力者であるタイのコンケン大学とベトナムのベトナム経済研究所の研究員と実施した。また、国別の留学生の受け入れ状況をベトナム中部の大学でサーベイとタイのコンケン大学で委託調査を行った（コンケン大学は国別の留学生の数は得られなかった）。また、観光客の動きの参考データとしてラオスの国境別入国者数のデータを用いた。

４．研究成果

本研究課題を通じ、タイ東北部、ラオス中南部、ベトナム中部の間で、① 経済回廊など越境道路の整備に伴う越境ツーリズムを通じたヒトの交流の増加、② 留学生受け入れなどによるヒトの交流の活発化、③ 姉妹都市関係などを通じた各国の地方政府間の活性化が認められた。また、④ ①と②の双方の関連で、タイからベトナム中部の観光客の増加で、タイ人観光客向けの通訳ガイドになることで高所得を稼ぐタイの越僑などが増え、タイ人観光客向けの通訳ガイドになるためにタイ語を勉強しに留学するベトナム人青年が増えた。以下では①～④の現象について説明を加え、その背景について論じていくこととしたい。

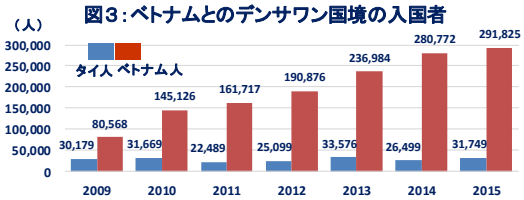
まず、タイ東北部とベトナム中部の旅行代理店でのヒアリングを通じ、タイのムクダハンから東西経済回廊をバスでフエに向かい、フエで 1 泊し 2 日目にフエの王宮などを観光した後、ダナンに宿泊、3 日目はダナンおよびホイアンの古い町並みをみた後、フエで泊まり、4 日目にタイのムクダハンに戻る 3 泊 4 日のツアー観光客が増えたとの話を聞いた。なお、客観的なデータとして、ラオスの国境の入国者数のデータをみると、当然ながらタイとの国境ではタイ人が、ベトナムとの国境ではベトナム人が多く、グラフにするとタイとの国境でのベトナム人、ベトナムとの国境でのタイ人は通常の国境ではほとんど認められない（例えば図 1・図 2）。ところが、東





出所: *Statistical Report on Tourism in Laos.*

西経済回廊のベトナムとのデンサワン＝ラオバオ国境では、タイ人が年間 20,000～35,000 人単位で入国していることが確認される（図 3）。ただ、ベトナム人入国者は 2009



出所: *Statistical Report on Tourism in Laos.*

年においては 80,000 人程度であったのが、2015 年は 29 万人を記録するなど、その差は拡大している。旅行者の多くは、大学教員や学生、地方政府関係者が研修ないし視察目的で訪れたり、会社の社員旅行でベトナム中部

を訪れるといった場合が多いとのことである。しかし、2014 年のプラユット政権後、大学関係者と地方政府関係者の研修・視察目的の渡航の自粛が求められたとのことである。なお、タイ人のラオスのサワンナケート県への入国は第 2 メコン友好橋が開通した 2006 年の翌年の 2007 年に急増している。

また、タイ人のベトナムへの観光客が伸び悩むなかで、ベトナムの所得増を背景に、中部ベトナムからラオスやタイを訪れる観光客が増え始めていることを 2016 年ベトナム中部の旅行代理店において聞いた。ルートとしては、ベトナム・ゲアン省のビンを出て、ベトナムとラオスの国道 8 号を西に進み、ラオス国道 13 号を左折し、ビエンチャンで 1 泊、翌日ビエンチャンの観光をした後に、タイに越境しウドンタニで買い物をした後、タイ国道 22 号を通り、ナコンパノムを訪れ、2 泊目の夜を過ごす。ナコンパノムで後述する友好村のホーチミン博物館を訪問した後、第 3 メコン友好橋を渡り、ビンに戻る 2 泊 3 日のツアーを利用する観光客が増えている。実際、タイとラオスのノンカイ＝ビエンチャン国境、ナコンパノム＝タケーク国境のベトナム人入国者が 2014 年にそれぞれ 20 万余りと 5.7 万人を記録している（図 4・図 5）。ただ、

図５：第１メコン友好橋（タイとの国境）での入国者

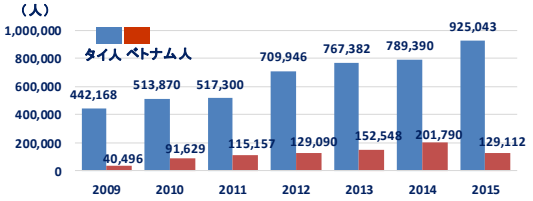
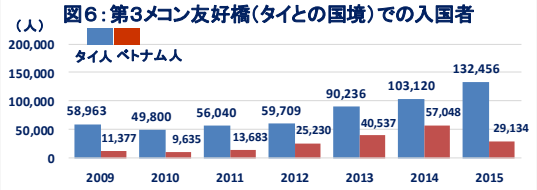


図６：第３メコン友好橋（タイとの国境）での入国者

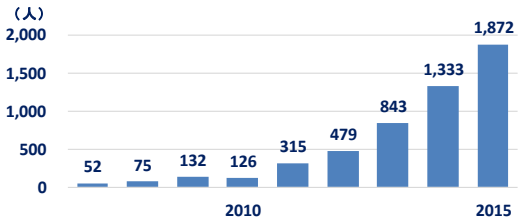


出所: *Statistical Report on Tourism in Laos*.

観光客だけではなく、ビジネス目的の越境者も多くいるものと思われる。

留学生に関しては、ベトナムのフエ大学では 2005 年からのデータが示す限り数 100 名単位でラオスをはじめとする外国人留学生を受け入れており、2015 年には 300 名を超えるなど増加傾向にあるほか、ビン大学では 100 名を下回る年もあるものの、2008 年には 300 名近く、2013 年には 400 名を超えるラオス人留学生を受け入れている。また、ハティン大学に至っては、2011 年以降数 100 名単位のラオス人が留学するようになっており、2015 年には 1,872 名弱にも及んでいる。このようにベトナム中部の都市の大学では、ラオス人の留学生の増加が顕著になっている。また、ラオス人のタイへの留学については、その数は明らかではないが、コンケン大学やバンコク近郊の大学の大学院にラオス政府職

図７：ハティン大学でのラオス人留学生



出所: ベトナム経済研究所が教育省を通じて調べた調査結果。

員が留学している事例が多く聞かれた。さらに、タイとベトナムとの間では、マハーサラカム大学とビン大学、ナコンパノム大学とハティン大学との間で交換留学が行われている。

次に地方政府間の姉妹都市をはじめとする交流であるが、タイ東北部およびベトナム中部の地方政府でのヒアリングから複数の交流関係が認められた。第 1 はベトナムとラオスとの間で国境を共有する省と県との間で姉妹都市関係が結ばれている。第 2 は Mekong Institute が東西経済回廊の沿道の県の商工会議所を集めた交流を推進したなかで、その沿道の省や県との間で交流関係が作られた。第 3 はタイで越僑が最も多いとされるナコンパノム県で 1996 年にタイ－ベトナム友好村を建設することになったことと 2011 年に第 3 メコン友好橋がナコンパノムとラオスのタケークに建設されたことがきっかけで、東北タイの 4 県、ラオスの 2 県、ベトナムの 3 県が毎年会合を持つようになっている。なお、前述のハティン大学とナコンパノム大学との交換留学プログラムは、2015 年の会合がきっかけで話が進んだとの話である。

ベトナムにおけるタイ語の通訳ガイドについては、タイ人観光客が増加し始めた 2007 年当初は、タイにいる越僑にガイドを依頼し、1 日 40 ドル程度を支払っていた。その給与が高いことが知れ渡り、タイに留学してタイ語を身に着けるベトナム人も増えたことで、2015 年現在ベトナム中部で 70～80 名までに増加したが、他方でその給与は 1 日 25 ドルから 30 ドルにまで下がったとの話である。しかし、それでも 2016 年に筆者がハティン省を訪れたとき、現地の旅行代理店では、1 人のガイドをナコンパノムに留学させていると話していた。

最後に観光、外国人留学生、地方政府間交流などを通じたヒトのコネクティビティが活発になった背景について、述べたい。第 1 は、タイ東北部のナコンパノム県、サコンナコン県、ムクダハン県、ウボンラッチャタニ県、ラオスのサワンナケート県やナコンパノム県などは元々越僑が多い地域である。タイの越僑には、3 つの世代があるとされる。まず、フエの阮王朝初代の嘉隆帝（阮福暎）が王位に就く前にタイに逃れていた際に移ったベトナム人と、第 2 代明命帝がクリスチャンを弾圧した際タイに逃れたベトナム人ク

リスチャンが 18～19 世紀初めに移り住んだ第 1 世代とされる。第 2 世代は、フランス植民地下の 1890～1930 年の時期にホーチミンをはじめとするベトナムの愛国者が植民地下の警察の目から逃れるため、タイに移住している。ホーチミン自身も 1928～1931 年にタイに移住しており、ナコンパノムでホーチミンが住んでいたとされる家のあった場所が、前述の友好村になっている。第 3 世代は、ベトナム戦争終了後旧南ベトナムから逃れた「ボート・ピープル」と呼ばれる世代である。こうしたベトナム系タイ人、ベトナム系ラオス人が、ベトナムとタイ、ベトナムとラオスとの間のビジネス面などでコネクターの役割を果たしている。第 2 は、ベトナムのフエの王宮、ホイアンの古い町並みなどは世界遺産に指定され、ダナンの海岸も観光資源としては非常に有益である。また、ベトナム人にとって、ビンのあるゲアン省はホーチミンの生まれ故郷であり、ナコンパノムは一時期住んでいた場所であり、ベトナム人をターゲットにした場合の有益な観光資源となるなど、観光資源が豊富であった点が挙げられる。第 3 は、経済回廊をはじめとする越境道路の整備で、ベトナムとラオスの国道 9 号線が 2005 年末頃に整備され、2006 年 12 月に第 2 メコン友好橋が、2011 年 11 月に第 3 メコン友好橋が完成し、東北タイとラオス、ベトナム中部との道路交通上の利便性が向上した点である。第 4 は、第 3 の道路交通上の利便性と関連し、東北タイと中部ベトナムに挟まれたラオスの区間の距離が短い地域でもある。ベトナム国道 1 号からラオスのタイ国境までの距離をみると、タケークからハティン省のブンアンに抜ける国道 12 号は 160km、国道 8 号で 218km、国道 9 号で 246km で、これらの地域ではタイとベトナムとの距離が近い。第 5 として、タイ人の中部ベトナムへの観光客が増えた要因として、タイのテレビ番組で 2005 年に「ホイアン 私はあなたを愛している」というドラマが放映され、人気を博したことが挙げられる。

このように東北タイ、ラオス中南部、ベトナム中部においては、タイとラオスにおける越僑の存在、豊富な観光資源、道路インフラ整備と地理的近接性から、観光客、留学、地方政府間の交流の面で、ヒトのコネクティビティが高まったと言える。実は 2012 年に採択された ASEAN コネクティビティ・マスター・プランは、物的コネクティビティ、制度的コネクティビティに加え、ヒトのコネクティビティを三本柱の一つに据えている。しかしながら、その事例はあまり多く聞かれていない。本研究で示した事例は、ヒトのコネクティビティが活発化した数少ない事例の一つと考えられ、様々な機会を通じ今後とも発表を続けたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計 1 件）

石田正美（近刊予定）「メコン地域 3 つの経済回廊の道路インフラ開発」トラン・ヴァン・トゥ・苅込俊一編『メコン地域開発とダイナミズム』（文眞堂）

〔国際研究集会〕（計 7 件）

2017 年 8 月に実施したベトナムのクアンビン（Quang Binh）大学、フエ（Hue）大学、タイのコンケン（Khon Kaen）大学におけるセミナー

(1) 石田正美”People-to-People Connectivity between Central Vietnam, Lao PDR and Northeastern Thailand”

(2) Phi Binh Tuong “The Development of Tourism Enterprise in Northern Central of Vietnam: Some Findings and Suggestion”

(3) Tran Thi Van Anh “Tourism Development in the Northern Central of Vietnam: Challenges in the Next Decade”

(4) Jutaviriya, Keeratiporn “Trends of Thai Tourists Expansion to Central Vietnam through Usage of Media in the Globalization Era”（フエ大学とコンケン大学のみ）

(5) Auraiampai, Nattawat “The Construction of Social Networks of Vietnamese-Thai in Nakhon Phanom Province, Thailand” （フエ大学とコンケン大学のセミナーのみ）

(6) Tran Luc Tu & Dr. Chung Nguyen Van “Economic tourism development for local area on the East-West Economic Corridor”（クアンビン大学のセミナーのみ）

(7) Le Thi Ha Quyen “Application of Structure Technique for Measuring Hue Tourist Destination Image in Thailand Tourist’ Eyes” （フエ大学のセミナーのみ）

〔その他〕

ホームページ等（計 4 件）

(1)「中部ベトナム、ラオス、東北タイの間のヒトの連結性に関するセミナー」
http://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Reports/20170731.html

(2) “Seminars on “People-to-People Connectivity between Central Vietnam, Lao PDR and Thailand”
http://www.ide.go.jp/English/Events/Reports/20170731.html

(3)「道路インフラの経済効果」（P36-39）

http://www.ide.go.jp/library/Japanese/Dogachannel/pdf/20170407_ishida.pdf

(4) “Economic Effects of Road Development and Its Challenges” (P12-14, 「ラオスの物流コスト」に関する政策提言セミナーの一部)
http://www.ide.go.jp/library/Japanese/Event/Reports/pdf/20170224_ishida_02.pdf

６．研究組織

(1) 研究代表者：石田正美（ISHIDA, Masami）
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター長
研究者番号：10450488

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

Dr. Phi Vinh Tuong ベトナム社会科学院ベトナム経済研究所経済開発研究課長（現在 ベトナム社会科学情報研究所副所長）

Dr. Keeratiporn Jutaviriya コンケン大学人文社会科学部メコン地域多様性研究センター副所長（同大学人文社会科学部助教授）

Ms. Tran Thi Van Anh
ベトナム社会科学院ベトナム経済研究所研究員

Mr. Nattawat Auraiampai コンケン大学修士課程人文社会科学研究科

Dr. Tran Luc Tu クアンビン大学経済観光学部部長

Dr. Chung Nguyen Van クアンビン大学経済観光学部講師

Ms. Le Thi Ha Quyen フエ大学修士課程観光サービス学研究科